

平成 25 年度先進事例見学会
湘南藤沢地方卸売市場
～ 中央卸売市場から民営市場へ ～

平成 25 年 7 月 25 日（木）（14：00～16：00）に横浜丸中青果株式会社様並びに湘南青果株式会社様及び国分株式会社藤沢流通センター様にご協力いただき、先進事例見学会を実施しました（参加人数 28 名）。以下にその概要をご紹介します。



湘南藤沢地方卸売市場の全景

I 湘南藤沢地方卸売市場の沿革

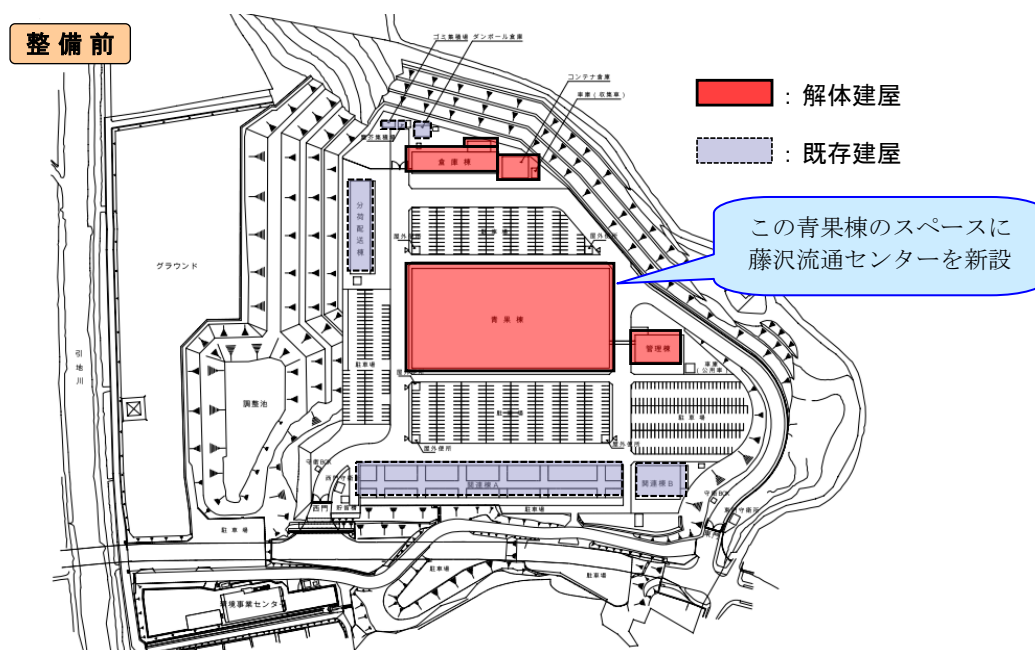
同市場は昭和 56 年 4 月に藤沢市中央卸売市場として開設しました。そして、平成 19 年 4 月に藤沢市地方卸売市場として地方市場に転換し、平成 21 年 4 月には利用料金制による指定管理者制度を導入しました（当時の指定管理者はメルカド湘南（市場）グループ）。さらに、平成 24 年 4 月から開設権が藤沢市から湘南青果(株)へ譲渡され、民営市場として湘南藤沢地方卸売市場が誕生しました。これは、国内で初めての中央卸売市場からの民営化のケースとなります。

II 湘南藤沢地方卸売市場の概要

今回の民営化は、市場機能を残したい藤沢市の考えを支援するため、横浜丸中青果(株)が市場整備事業を推進し予算を協力負担しています。施設では卸売棟をコンパクトに建て替えるとともに、従来あった青果棟を解体して新たに配送棟を造成し、そこに国分(株)を誘致して、同社が運営する藤沢流通センターが平成 24 年 7 月から稼働しています。また、新設した配送棟は 2 階建てで、常温の荷捌き場（1 階部分）と -28°C ～ 5°C までの冷凍・冷蔵荷捌き場（2 階部分）を設けています。

なお、今回のリニューアルにより、市場施設の延べ床面積は 9,000 m²から 33,000 m²にまで拡大し、取扱量が大幅に増加しています。また、冷凍・冷蔵施設の面積も約 600 m²から 7,400 m²に拡張され、量販店からニーズの多いカット野菜などの取扱いも可能となり、生鮮食品物流の機能強化が図られています。

さらに、三温度帯での管理が可能となる食品流通センター（仮称）も現在建築中で、来年度中にも稼働予定となっています。



湘南藤沢地方卸売市場（配置図）



建築中の食品流通センター（仮称）

Ⅲ 場内の設備

場内は卸売棟、配送棟、分荷棟、関連棟で構成されています。概要は以下のとおり。

(1) 卸売棟 (7,462 m²)

施設名	規模 (m ²)	構造及び能力	関係者
卸売場	1,852	地上2階建 鉄骨造 15 バース (1階部分)	卸売業者 (2社) 横浜丸中青果(株)湘南支社 湘南青果(株) 仲卸業者 (4社) (株)徳進、南部金沢(株) 有限会社丸長、(株)藤翔 売買参加者 湘南中央青果協同組合 組合員 131名
仲卸売場	1,378		
業者事務所	1,161		
管理事務所	125		
リフレッシュコーナー	64		
冷蔵庫	614		
大屋根下荷卸場	985		
その他	1,283		

◆卸売棟の外観及び内部設備



東側



北側



卸売場



プラットフォーム



卸売会社の事務所



冷蔵庫

(2) 分荷棟 (742 m²)

施設名	規模 (m ²)	構造及び能力
低温倉庫	300	鉄骨造平屋建
倉庫	442	

◆分荷棟の設備



南側



北側

(3) 関連棟 (6,734 m²)

施設名	規模 (m ²)	構造及び能力	構造及び能力
関連商品売場	6,258	鉄骨、鉄筋コンクリート造 2階建	関連事業者 (25社)
倉庫	328		
業者事務所	62		
その他	86	電気室、他	

◆関連棟の外観



東側



西側

IV 国分(株)藤沢流通センター（配送棟）

国分(株)藤沢流通センターは、湘南藤沢地方卸売市場に位置し、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の延伸計画に伴い、神奈川県を中心に埼玉県や東京都をカバーする三温度帯の大型汎用センターです。同センターは在庫型センターの機能だけでなく、通過型センターとしての機能を持ち、大量な商品の入出荷に対応できるよう1階、2階の各フロアに合計98基の接車バースを設けています。また卸売市場の立地を活かし、市場を活用した青果物流に対応できるセンターとなっています。

加えて、取扱対象は、加工食品（常温）、酒類、冷凍食品、チルド食品、デリカ商品、アイスクリーム、生鮮食品など多岐に亘っており、顧客ニーズに即した物流サービスの提供が可能になっています。

◆藤沢流通センターの特徴

① 環境への配慮

- ・蓄熱冷却システム採用

深夜電力を採用し、冷却エネルギーを蓄熱、翌日13時～16時に放冷し、電力使用のピーク時に冷蔵庫用冷凍機の運転を停止します。

- ・FAシステム採用

冷蔵庫内ではダクトを天井パネル裏に配置し、冷気をやわらかく送り出し、低騒音の作業環境を実現

② 敷地の有効活用

- ・1階倉庫エリアは南北両面に出荷バースを設置
- ・青果市場と連携した青果物流の取組み

③ 取扱アイテム

- ・10,000アイテム（1階在庫商品）／2,000アイテム（2階在庫商品）

- ④ ラック保管パレット数
 - ・ 1,350 パレット（1階）／1,518 パレット（2階）
- ⑤ 配送エリア
 - ・ 関東／甲信越／静岡
- ⑥ 物流設備・機器
 - ・ 垂直搬送機
 - ・ 無線ハンディーターミナル
 - ・ 車両受付誘導システム（受付 Pro）
 - ・ デジタルアソートシステム（DAS）

◆配送棟（20,281 m²）

施設名		規模（m ² ）	構造及び能力	関係者
1階 (10,561 m ²)	常温エリア	9,708	地上2階建鉄骨造 接車バース： 1階：南38基・北26基 2階：34基 天井高： 冷凍・常温：5.5m 冷蔵：3.5m スタンバイ電源：18基	国分株
	事務所	853		
2階 (9,720 m ²)	冷凍エリア	3,220		
	パーシャルエリア	333		
	冷蔵エリア	3,313		
	常温エリア	2,115		
事務所	739			

◆配送棟の外観及び内部設備



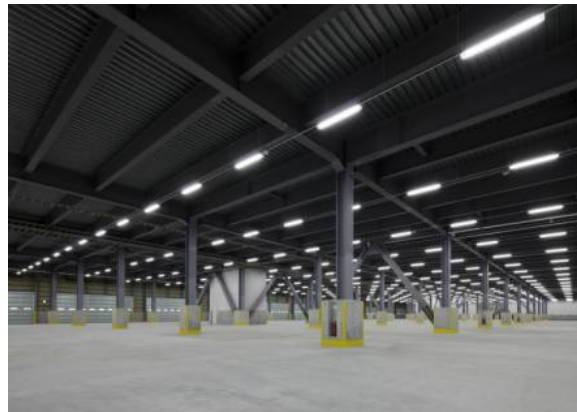
南側



北側



ドックシェルター



防火区画のない大空間



垂直搬送機



三温度帯対応の冷凍・冷蔵設備



DASのライン



常温エリア

V おわりに

上述のとおり、湘南藤沢地方卸売市場は昨年新たに民営市場として生まれ変わりました。それに伴い、現状の取扱高に合わせて卸売棟をコンパクトに建て替えるとともに、新たに配送棟を造成し、市場内の物流動線を最適化しています。

また、従前から毎週土曜日には「湘南朝市」を開催し、近隣住民を関連棟に集めて、地元産の湘南野菜[※]や新鮮な魚の特売、試食会や料理教室を行うなど、地元密着にも取り組ん

でいます。

なお、ご存知の通り、多くの卸売市場における取扱高は年々減少傾向にあり、市場流通を取り巻く環境は大変厳しい状況となっていますが、そのような中（だからこそ）、同市場は現在も食品流通センターを追加造成するなど、積極的に設備投資を行っています。また、横浜丸中青果㈱並びに湘南青果㈱と国分㈱藤沢流通センターが連携することで、今後どのようなシナジー効果を生み出すことができるか、といった点も重要ポイントになるかと思われていますが、その成果について非常に注目されます。

※ 湘南野菜とは湘南野菜出荷推進協議会に加盟している組合や農家の方が生産した全ての野菜を「湘南野菜」と呼んでいます。湘南野菜出荷推進協議会は平成6年に「湘南野菜」を安心安全に食べられる地場野菜や生産者の顔が見える新鮮野菜、さらに地産地消を推進するために商標登録をしてブランド化されています（湘南野菜出荷推進協議会 会員 299名）。

